

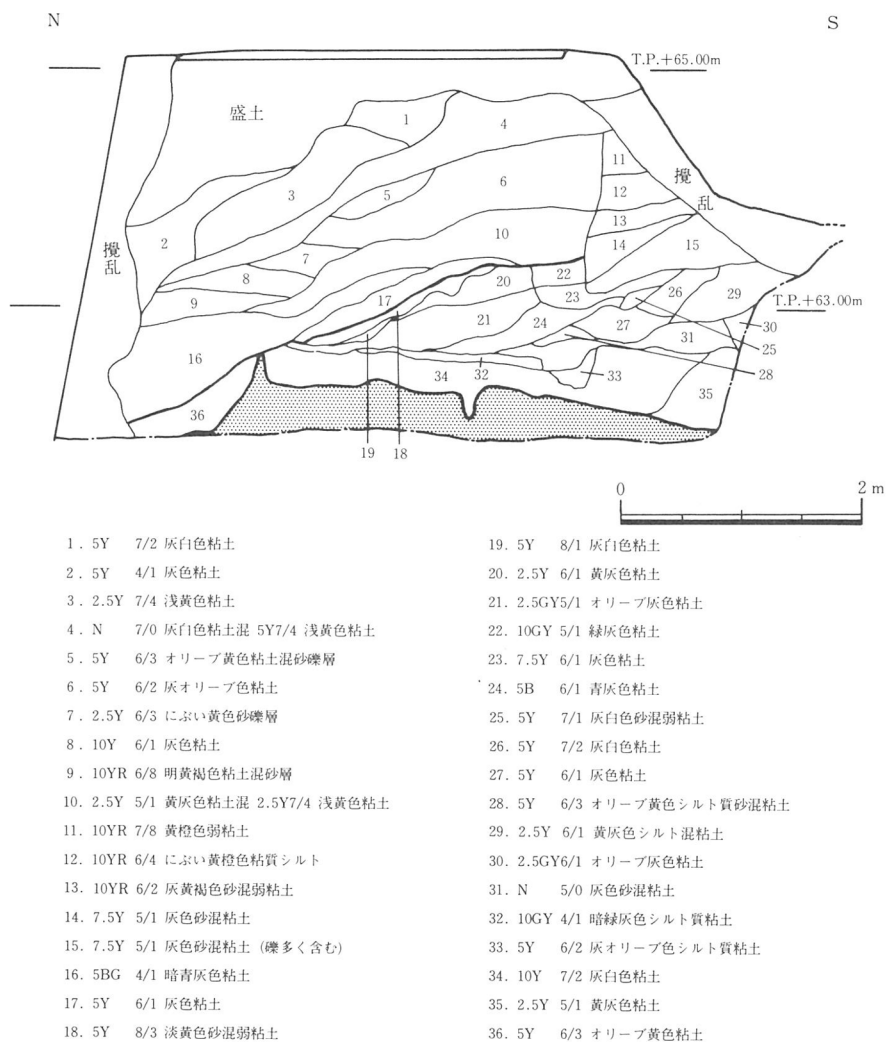
第35図 二俣池北遺跡(西側堤防)遺構配置図

第2項 二俣池南側堤防の調査

今回の二俣池南側堤防の調査は、主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線の開通に伴い、現道拡張のための調査である。調査面積は約400㎡に及んだ。堤防築堤時の攪乱が著しく、遺構・遺物の残存状態は非常に悪い。

二俣池南側堤防 (第36図、図版14)

南側の堤防は約150mに渡って護岸工事が施されている。今回の調査は南側堤防の東端部の約30mについて行った。堤防は土層観察の結果、3期の盛土層からなると思われる。



第36図 二俣池南側堤防断面図

上部盛土層は昭和45・46年の護岸工事によるものと思われる。中部盛土層は南から北になだらかに傾斜して堆積し、下位層の削剝斜面を覆う。盛土は黄褐色系の粘土を使用し、比較的丁寧な盛土を行っている。下部の盛土層は斜面堆積する盛土層である。この下部盛土層は池の内側の堆積と、外側の堆積が若干ちがうように思われる。内側の堆積は南から北に向かってなだらかに傾斜しながら堆積し、内側に向うほど層は薄く堆積している。外側の堆積は、厚さ20～30cmのブロック状に堆積している。池の内側と外側の堆積には、ある程度の時期差があるのかもしれない。

今回の調査では、調査区の関係上、池の内外側とも擁壁までしか調査できなかったため、中・下部盛土層と池底堆積層の堆積状況や下部盛土層（旧堤防）の広がりや堆積状況についての確認はできなかった。遺物はいずれの層からも出土せず、中・下部盛土層の時期判別はできなかった。

1. 検出遺構と遺物

二俣池南側堤防の調査で確認された遺構には、ピット・土坑・溝などがある。二俣池南側堤防築堤時の攪乱が著しく、今回検出された遺構は調査区の南側に集中している。

土坑 (OO)

2-OO (第37・38図、図版15)

B01XK地区に位置する土坑である。平面形は楕円形を呈し、長径約73cm、短径約44cm、深さ9cmを測る。埋土は黄灰色粘土(2.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

3-OO (第37・38図、図版15)

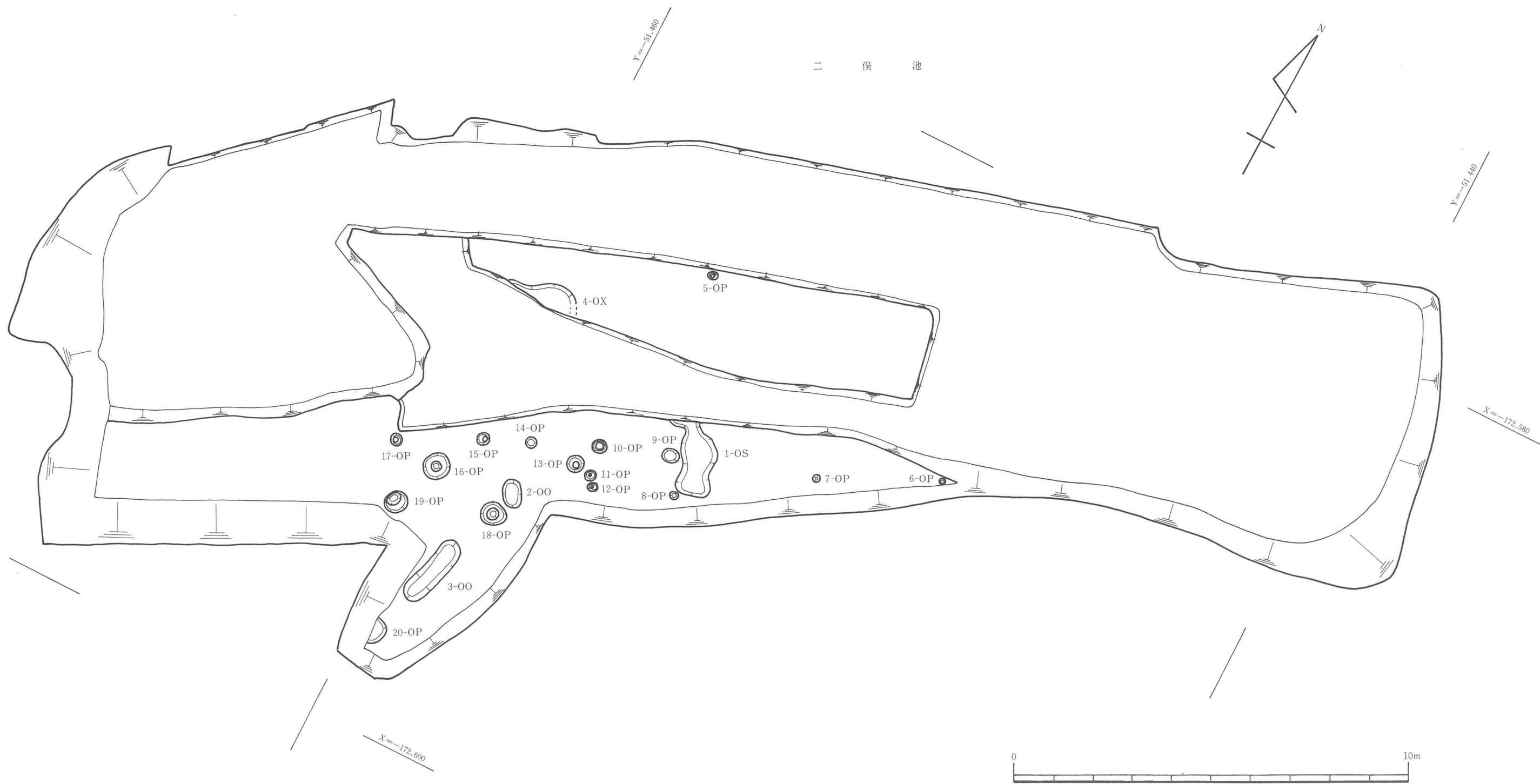
調査区南側のB01XK・YK地区に位置する土坑である。平面形は長方形を呈し、最大長約1.8m、幅約56cm、深さ21cmを測る。埋土は黄褐色粘土(10YR5/6)である。遺物は出土しなかった。

溝 (OS)

1-OS (第37・38図、図版15)

調査区東側のB01WL地区に位置する。溝は南北方向のもので、北側は堤防築堤の攪乱によって切られているため全容は不明である。調査区内検出長約2.1m、深さ13cm前後を測る。埋土は黄灰色粘土(2.5Y5/1)で、細砂を多く含む。遺物は出土しなかった。

二 俣 池

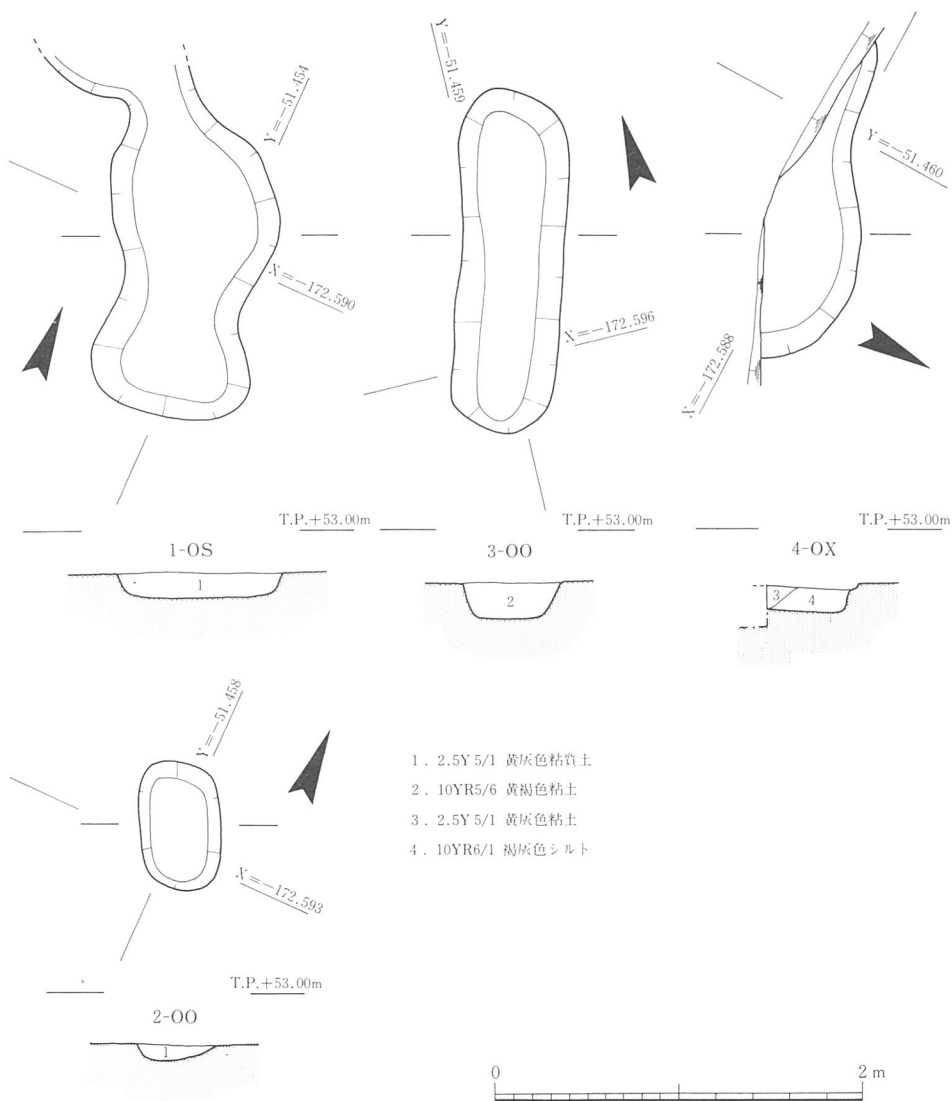


第37図 二俣池北遺跡（西側堤防）遺構配置図

不明遺構 (OX)

4-OX (第37・38図)

調査区北側のB01V K・WK地区にまたがって位置する。堤防築堤の削平を受け、南側を切られている。平面形は不定形な楕円形状を呈するものと思われる。検出最大長約1.8 m、幅約50 cm、深さ17 cm前後を測る。埋土は黄灰色粘土 (2.5Y5/1)、褐灰色シルト (10YR6/1) の2層に分層される。遺物は出土しなかった。



第38図 1-Os、2・3-Oo、4-Ox平面・断面図

ピット (OP)

5-OP (第37図)

調査区北側のB01VK・VL地区にまたがって位置するピットである。平面形はほぼ円形を呈し、径約25cm、深さ7cmを測る。ほぼ中央部に径約10cmの柱痕跡をもつ。埋土は黄灰色粘質土(2.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

6-OP (第37図)

調査区東側のB01VM地区に位置する。平面形はほぼ円形を呈し、径約16cm、深さ10cmを測る。埋土は黄灰色粘土(2.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

7-OP (第37図)

6-OP西側のB01WM地区に位置するピットである。平面形は円形を呈し、径約19cm、深さ15cmを測る。埋土は黄灰色粘土(2.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

8-OP (第37図)

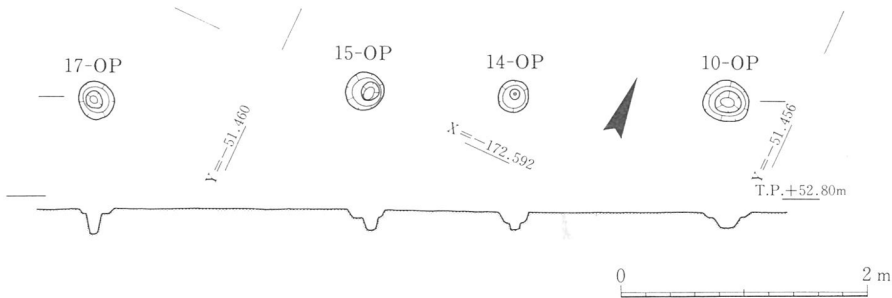
調査区南側のB01WL地区に位置する。1-OSの南側に接するように位置し、平面形は円形を呈する。径約21cm、深さ6cmを測り、埋土は黄灰色粘土(2.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

9-OP (第37図)

調査区南側のB01WL地区に位置するピットである。1-OSの東側に接するように位置する。平面形は不定形な円形を呈し、長径約44cm、短径約34cm、深さ14cmを測る。埋土は黄灰色粘土(2.5Y5/1)である。遺物は出土しなかった。

10・14・15・17-OP (第37・39図)

B01WK・XK・XJ地区で検出したピットである。ほぼ一列にならび、主軸をN-65°-Eにもつ。10-OPはB01WK地区に位置する。平面形はほぼ円形を呈し、径約37cm、深さ12cmを測る。ほぼ中央部に径約22cmの柱痕跡をもつ。埋土は暗赤灰色粘土(10R



第39図 10・14・15・17-OP平面・断面図

4/1) であった。14-OPはB01WK地区に位置する。ほぼ円形の平面形を呈し、径約27cm、深さ13cmを測る。中央部よりやや北側に径約8cmの柱痕跡をもつ。埋土は黄褐色粘土(10YR5/6)である。15-OPはB01WK・XK地区にまたがって位置する。平面形はほぼ円形を呈し、径約32cm、深さ16cmを測る。中央よりやや北東に径約16cmの柱痕跡をもつ。埋土は黄褐色粘土(10YR5/6)である。17-OPはB01XJ地区に位置する。ほぼ円形を呈する平面形をもち、径約31cm、深さ21cmである。中央部に径約15cmの柱痕跡を持つ。埋土は暗赤灰色粘土(10R4/1)で小石を多く含む。各ピットの芯々間距離は、10-OPと14-OPが1.7m、14-OPと15-OPが1.2m、15-OPと17-OPが2.2mを夫々測る。

今回の調査では調査範囲が狭く、堤防築堤時の攪乱が著しく遺構の残りはあまりよくなかった。各ピットの平面形はほぼ円形を呈し、径約30cm前後で、深さ12~21cmを測る。これらのピットは建物を想定することは困難であるが、ピットの形状・深さ・埋土などから判断して柵列の可能性が高いと思われる。いずれのピットからも遺物は出土しなかった。

11-OP (第37図)

調査区南側のB01WK地区に位置する。平面形は円形を呈し、径約29cm、深さ12cmを測る。中央部に径約12cmの柱痕跡をもつ。埋土は暗赤灰色粘土(10YR4/1)である。遺物は出土しなかった。

12-OP (第37図)

調査区南側のB01WK地区に位置するピットである。11-OPの南側に接するように位置し、平面形は円形を呈する。径約27cm、深さ12cmを測る。中央部よりやや南側に径約12cmの柱痕跡をもつ。埋土は暗赤灰色粘土(10R4/1)である。遺物は出土しなかった。

13-OP (第37図)

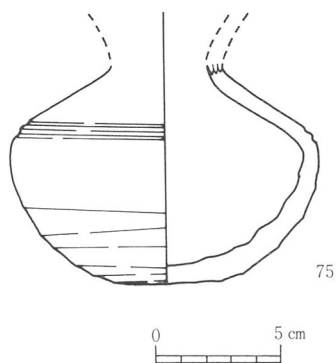
調査区南側のB01WK地区に位置する。平面形は円形を呈し、径約45cm、深さ17cmを測る。ほぼ中央部に径約12cmの柱痕跡をもつ。埋土は暗赤灰色粘土(10YR4/1)である。遺物は出土しなかった。

16・18・19-OP (第37・40・41図、図版15・19)

調査区南側のB01XK・XJ地区で検出したピット群である。16-OPの平面形は円形を呈し、径約71cm、深さ71cmを測る。ほぼ中央部に径約29cmの柱痕跡をもつ。埋土は暗赤灰色粘土(10R4/1)である。出土遺物としては須恵器壺(75)を1点出土した。(75)は口縁部を欠損するが、頸部から下は完形である。残存高8.8cmを測り、底は平らに仕上

げる。外面の調整は回転ヘラケズリで、肩部には2条の凹線が巡る。色調は暗青灰色（5B4/1）を呈し、一部に自然釉が付着する。

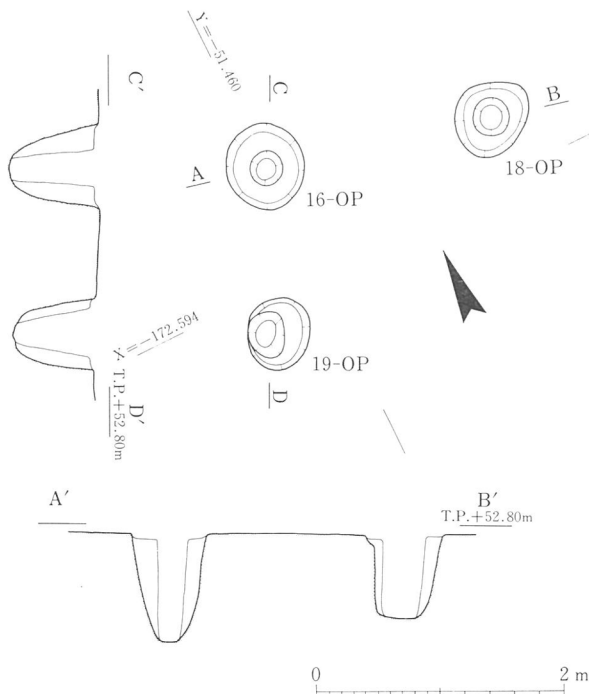
18-OPはB01XK地区に位置する。平面形は不定形な円形を呈し、長径約68cm、短径約57cm、深さ57cmを測る。ほぼ中央部に径約25cmの柱痕跡をもつ。埋土は暗赤灰色粘土（10R4/1）である。遺物は出土しなかったが、柱を受けるための根石を据えていた。根石には比較的平坦な石を使用していた。



第40図 16-OP出土土器

19-OPはB01XJ地区に位置する。平面形は円形を呈し、径約60cm、深さ48cmを測る。中央部よりやや西側に径約38cmの柱痕跡をもつ。埋土は暗赤灰色粘土（10R4/1）である。遺物は出土しなかった。

各ピットの芯々間距離と主軸は、16-OPが1.8mでN-27°-W、16-OPと19-OPが1.3mでN-28°-Eを夫々測る。調査区の関係上、1間分ずつしか検出できなかったが、建物の一部の可能性が高いと思われる。



第41図 16・18・19-OP平面・断面図

20-OP (第37図)

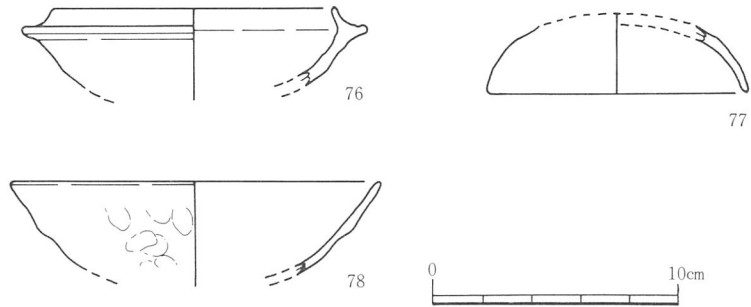
調査区南端のB01YK地区に位置するピットである。平面形は調査範囲の関係上、全体を検出し得なかったが、円形を呈すると考えられる。径約69cm、深さ15cmを測る。埋土は暗赤灰色粘土（10R4/1）で、柱痕跡は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

2. 包含層出土遺物

(第42図、図版19)

二俣池南側堤防の調査区

において確認した堆積土は、最終遺構面に達するまでに4層に分かれる。今回の調査区では、二俣池南側堤防築堤の攪乱が著しく、包含層も調査区の南側の一部でしか確認されなかった。第1層は現代耕作土、第2層は整地土、第3層は旧耕作土、第4層は整地土であり、比較的水平的な堆積状況である。遺物は第2層、第4層で認められたが、第2層より出土した遺物の内容は、土師器、須恵器(76・77)、施釉陶器、瓦器(78)、瓦(軒平瓦)などがある。遺物はいずれも小片であり、残存状態は非常に悪い。以下に図化し得たものを示す。



第42図 包含層出土土器

悪い。以下に図化し得たものを示す。

(76)は須恵器の杯身である。復元口径11.4cm、受口径14cmを測り、胎土中に1mm前後の白色粒を多く含む。色調は灰色(N5/0)である。(77)は須恵器の杯蓋である。復元口径10.6cmを測る。(78)は瓦器碗である。復元口径15cmを測る。内外面の調整は磨滅のため不明であるが、外面下位には指頭圧痕が認められる。

第4表 二俣池北遺跡ピット計測表(南側堤防の調査)

遺構番号	地区名	掘方径	柱根径	深さ	埋土	遺物
5-OP	B01-VL	25	10	7	(2.5Y5/1) 黄灰色粘質土	須恵器壺
6-OP	B01-VM	16	—	10	〃	
7-OP	B01-WM	19	—	15	〃	
8-OP	B01-WL	21	—	6	〃	
9-OP	B01-WL	44	—	14	〃	
10-OP	B01-WK	37	22	12	(10R4/1) 暗赤灰色粘土	
11-OP	B01-WK	29	12	12	〃	
12-OP	B01-WK	27	12	12	〃	
13-OP	B01-WK	45	17	12	〃	
14-OP	B01-WK	27	8	13	(10YR5/6) 黄褐色粘土	
15-OP	B01-XK	32	16	16	〃	
16-OP	B01-XJ	71	29	71	(10R4/1) 暗赤灰色粘土小石多く含む	
17-OP	B01-XJ	31	15	21	〃	
18-OP	B01-XK	68	25	57	〃	
19-OP	B01-XJ	60	38	48	〃	
20-OP	B01-YK	69	—	15	〃	

凡例：「地区名」は代表地区名、「掘方径」「柱根径」「深さ」の単位はcm。

第Ⅳ章 まとめ

今回の山ノ内遺跡その3の調査は、工事発注の都合により、山ノ内遺跡・山直北遺跡・二俣池北遺跡（西側・南側堤防の調査）の3遺跡を1つの事業として発掘調査を行った。調査の結果、山ノ内遺跡からは縄文時代から中世の遺構・遺物が検出され、山直北遺跡では、古墳時代から中世の遺構・遺物と包含層内より弥生時代のものと思われる石製品などが出土した。また、二俣池北遺跡西側堤防の調査では、古墳時代から中世の遺構・遺物が検出され、南側堤防の調査では、古墳時代から中世と思われる遺構・遺物が検出された。二俣池北遺跡の調査地はいずれも堤防築堤による削平・攪乱が著しく、遺構の残りも悪く、遺物の出土量も少なかった。以下、今回の発掘調査の成果をもとに、各調査区の変遷について大まかな見通しを述べ、まとめにかえたい。

山ノ内遺跡における縄文時代の遺構は、調査区の南側に集中して確認された。それらは19-OP出土遺物などの検討から縄文後期に属するものと考えられる。今回の調査地の北側に位置する山ノ内遺跡A地区では、中近世耕作土及び自然河川内より、遺物のみが検出され、市道を挟んで南側に隣接する山ノ内遺跡B地区では、貯蔵穴などの遺構と遺物が確認されている⁽¹⁾⁽²⁾。以上のことからこの地域における縄文時代の遺構は、調査地の東側に広がる段丘面上に位置するのではないかと考えられる。

弥生時代の遺構も縄文時代の遺構と同様、調査区南側にて確認されている。今回検出した1-OOからは、弥生時代中期に属する壺が直立した状態で出土している。また、隣接する段丘下の山ノ内遺跡で住居跡が検出され、段丘上の山直北遺跡では土坑・土坑墓などが検出されている⁽²⁾。今回の調査地では住居跡等の遺構は検出されなかったが、近接する調査区外に検出される可能性はきわめて高いと考えられる。

今回の調査地において、古墳時代の遺構は確認することができなかったが、遺物は古墳時代の須恵器などが後世の包含層の中から出土している。近隣になんらかの遺構が存在するのではないかと考えられる。

中世の遺構としては調査地の東端で検出したピット群がある。これらのピット群は主軸をN-15°-Eにもつものであるが、遺物が出土しなかったため時期の決定は困難であった。しかし、これらは掘立柱建物跡の一部である可能性が高いと予想される。このほかに旧耕作面を2面検出したが、畦畔や小溝などの耕作関係遺構は検出されなかった。

山直北遺跡の調査では、第6層上面と第7層上面にて遺構を検出することができた。今

回の調査地は、中～近世の断続的な開発による削平を著しく受けていると思われる。第6層は調査地のほぼ全域で認められるが、層厚は非常に薄く、調査地の東側では確認されなかった。また、第7層は東から西に向かってやや傾斜している。

古墳時代の遺構としては第7層上面で検出された28-O Sがある。28-O Sは調査区内を南東から北西方向に走る溝で、深さも10～20cmと浅く、上部は削平されているものと考えられることから、本来の形状・規模は不明である。溝内から出土している須恵器から6世紀後半頃に比定されるものと考えられる。形状や方向を考えるとおそらくこの溝は、東側に位置する三田遺跡C地区で検出された1171-O Sに続くものではないかと思われる⁽³⁾。

中世の遺構としては第6層上面で検出された2-O Pや18・27-O Sなどが考えられる。溝は東西方向に走り、13世紀頃と考えられる遺物を出土する。他の遺構としては、耕作関係の小溝や鋤溝(24-O X)などがあるが、遺物があまり出土しなかったため、各遺構の時期決定は困難である。今回の調査地では全体に削平を受けていると思われるため、住居を示す遺構は検出されなかった。

二俣池西側及び南側堤防の調査では、第Ⅲ章第4節でも述べたように調査範囲が狭く、堤防築堤時の削平を著しく受けているため、遺構の遺存状態は非常に悪いものであった。

古墳時代の遺構は西側堤防調査地で検出された50-O Dが考えられる。この遺構からは遺物が出土しなかったため、時期の断定はできないが、近接する調査区(昭和62年度二俣池北遺跡の発掘調査)の調査結果では、検出された建物跡を大きく7つの時期に分類している。これらは建物の構造的特徴・配置・方位や出土した遺物などの検討から分類されたものである⁽⁴⁾。以上のことから、今回検出された50-O Dは、第Ⅱ期の6世紀末～7世紀前半の時期に類推されるものと思われる。また、南側堤防の調査地では、16-O P内より6世紀後半に比定される須恵器の壺が出土したことや、柱を受けるための根石を据えているピットが検出されたため、掘立柱建物跡の存在していた可能性が高いと考えられる。

中世の遺構としては二俣池西側で検出された1・2-O Sが考えられ、二俣池と平行するようにして走る溝である。これらの溝から検出された遺物の検討から、13世紀～14世紀代のものと考えられる。他の遺構は遺物が出土せず時期の決定は困難であった。

二俣池の堤防調査では、現存する堤防が昭和45・46年の護岸工事によって現在のコンクリート擁壁になったことが判明している。今回の調査では、古い堤防痕跡を現在の堤防の下に2期分検出することができた。中部の盛土層は、池の内側部分を上部盛土層によって削平されているため、本来の形状や規模は不明である。各層に含まれる遺物も少なく、こ

の盛土層の築堤時期を決定することは困難であるが、14世紀代と比定される瓦器碗などを含んでいる。また、下部盛土層も中部盛土層によって削平されているため、本来の形状や規模は残念ながら不明である。近隣する調査地の成果や堤防の断面観察の結果、下部盛土層は、古墳時代の遺構面を削平して築堤され、中部盛土層は古墳時代の遺構面に掘り込まれた2-O Sと下部盛土層（池の内側の盛土）を削平して築堤されていると考えられる。

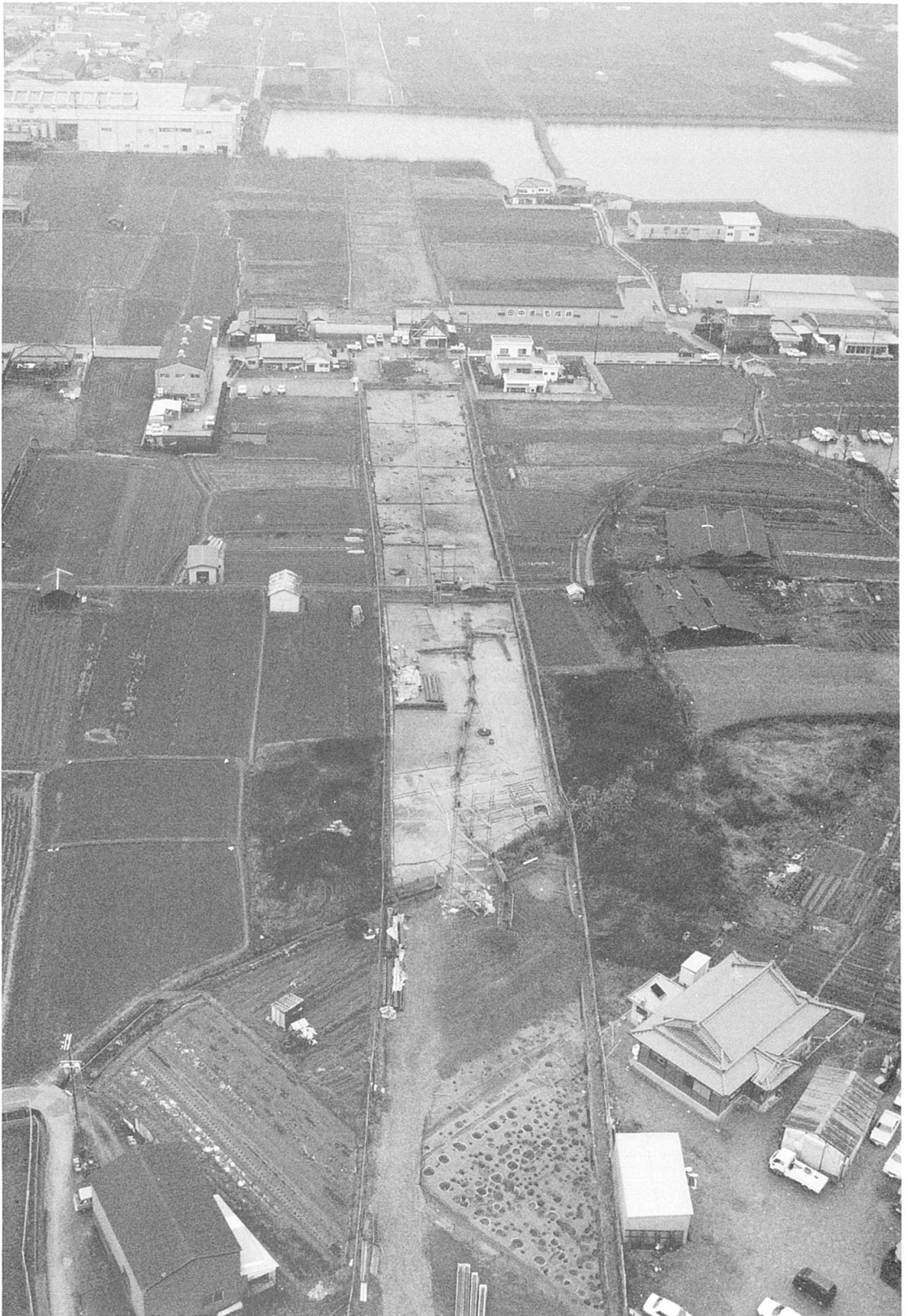
以上のことから二俣池の堤防は、現在の堤防よりやや後方に築堤されており、2-O Sが埋没した後に築堤されたと仮定するならば、下部盛土層の築堤年代としては14世紀以降の可能性が予想されることになる。

今年度の調査で、主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線路線内における12の遺跡（箕土路遺跡から山直中遺跡まで）調査はほぼ終了することとなった。今後は路線内の検出された遺構・遺物の再検討と共に、路線に近接する地域の調査結果を含んだ成果に期待するところが大きい。

註

- (1) 『山ノ内遺跡発掘調査報告書』 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1988
- (2) 『山ノ内遺跡B地区・山直北遺跡発掘調査報告書』 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1988
- (3) 『三田遺跡発掘調査報告書』 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1987
- (4) 『二俣池北遺跡発掘調査報告書』 (財)大阪府埋蔵文化財協会 1989

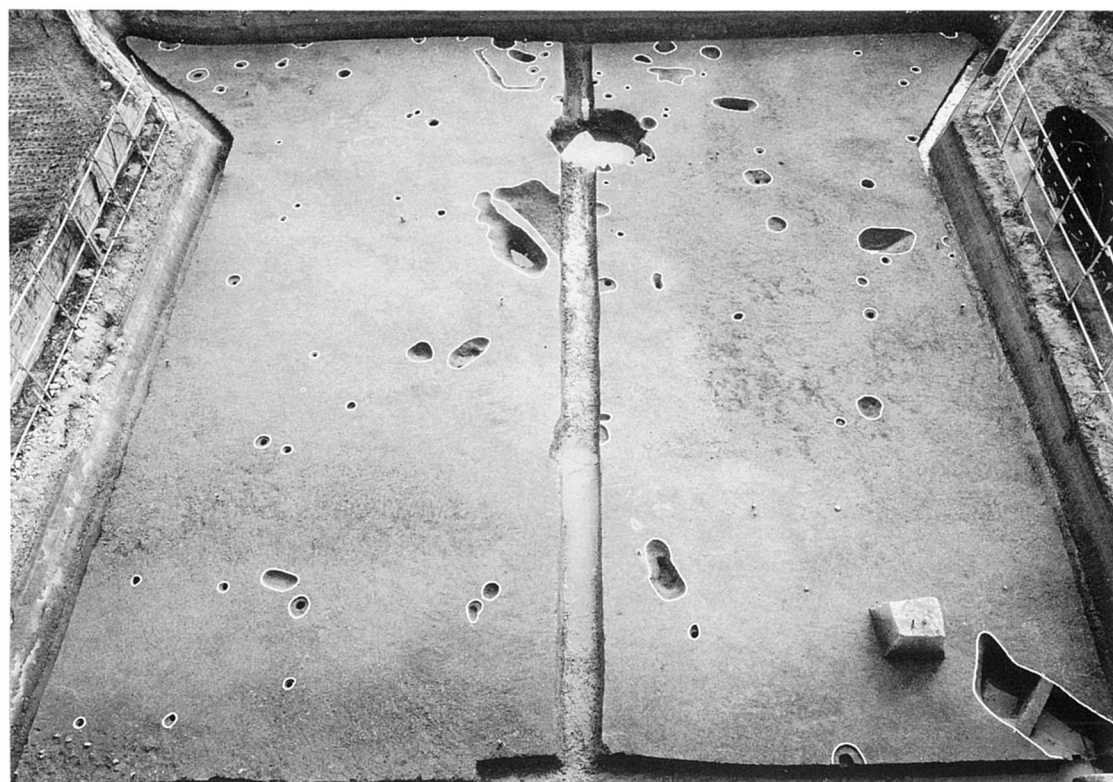
版 图



山ノ内遺跡全景「1986年調査時撮影」(南東から)



調査区遠景（南東から）



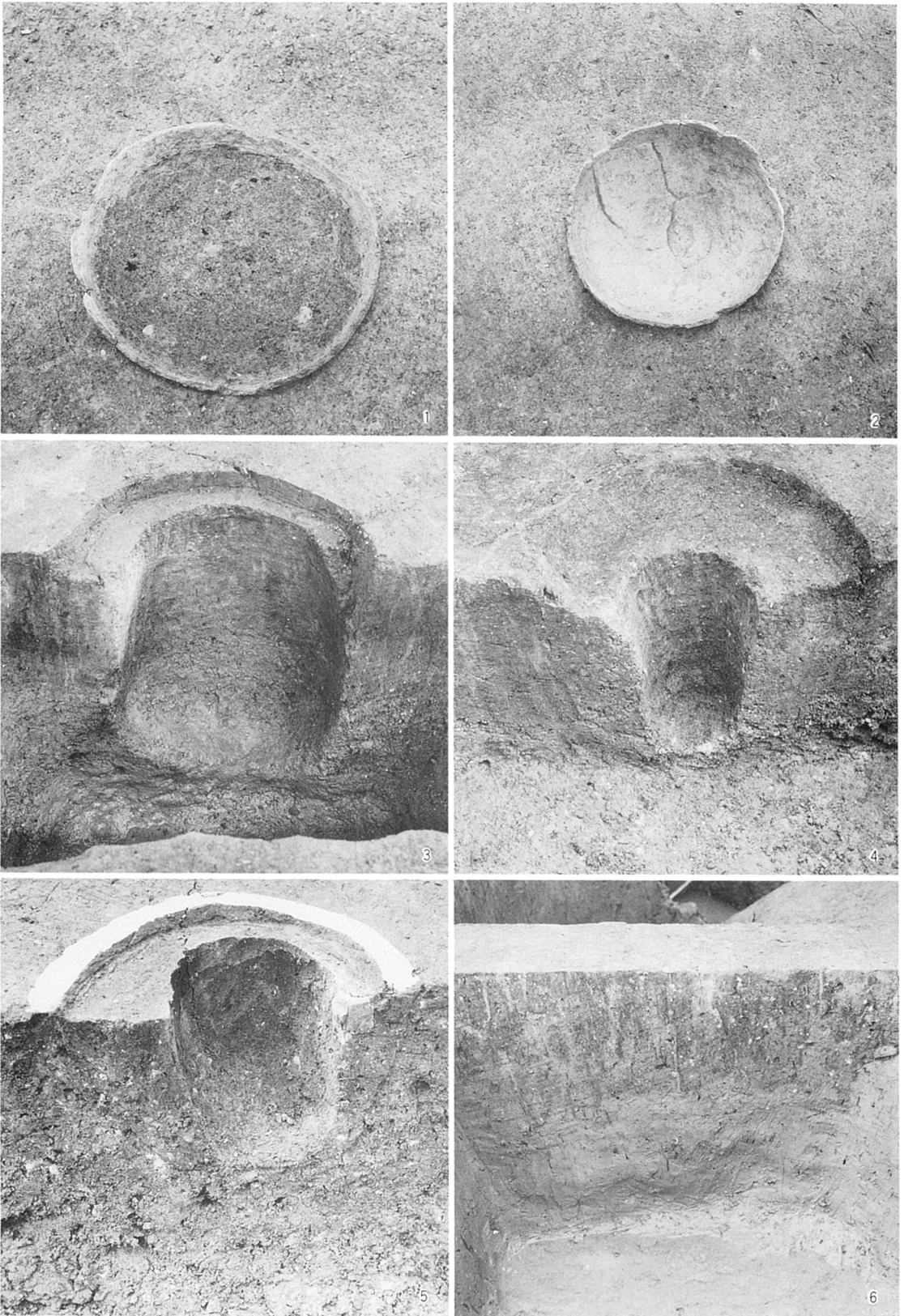
調査区全景（北西から）



調査区北壁土層断面（南から）



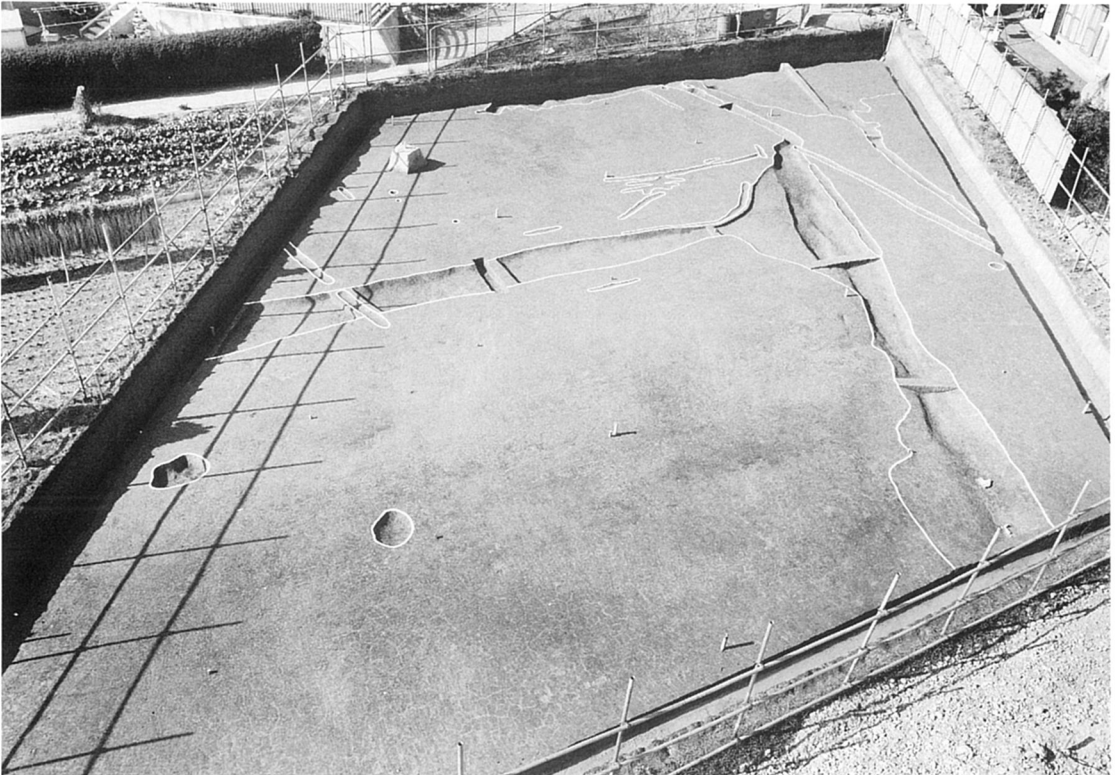
調査区西壁土層断面（東から）



1, 1-00検出状況、2, 1-00遺物出土状況、3, 11-OP断面、4, 18-OP断面、5, 22-OP断面、6, 69-00断面



調査区遠景（南から）



調査区全景（南東から）



調査区東壁土層断面（西から）



調査区西壁土層断面（東から）



1, 28-OS遺物出土状況(西から)、2, 同細部、3, 27-OS断面、4, 28-OS北側断面



5, 28-OS南側断面、6, 29-OS断面



二俣池北遺跡周辺空中写真（1990年2月撮影）



二俣池西側堤防調査区「試掘調査」遠景（東から）



Aトレンチ断面（北から）



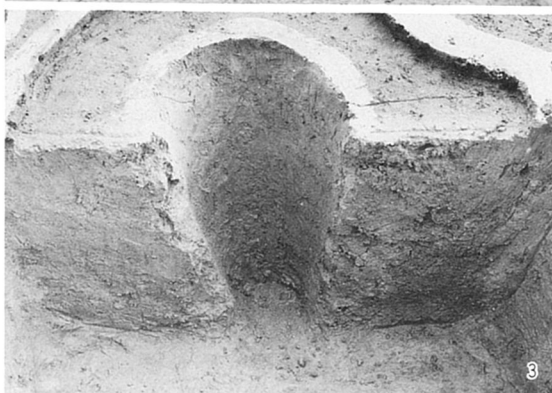
二俣池西側堤防調査区遠景（南から）



調査区全景（北西から）



50-OD全景（南から）



1, 50-OD中央畦断面（西から）、2, 50-OD北側断面（南から）、3, 4-OP断面、4, 6-OP断面



1, 2-OS断面、2, 9-OP断面、3, 10-OP断面、4, 11-OP断面



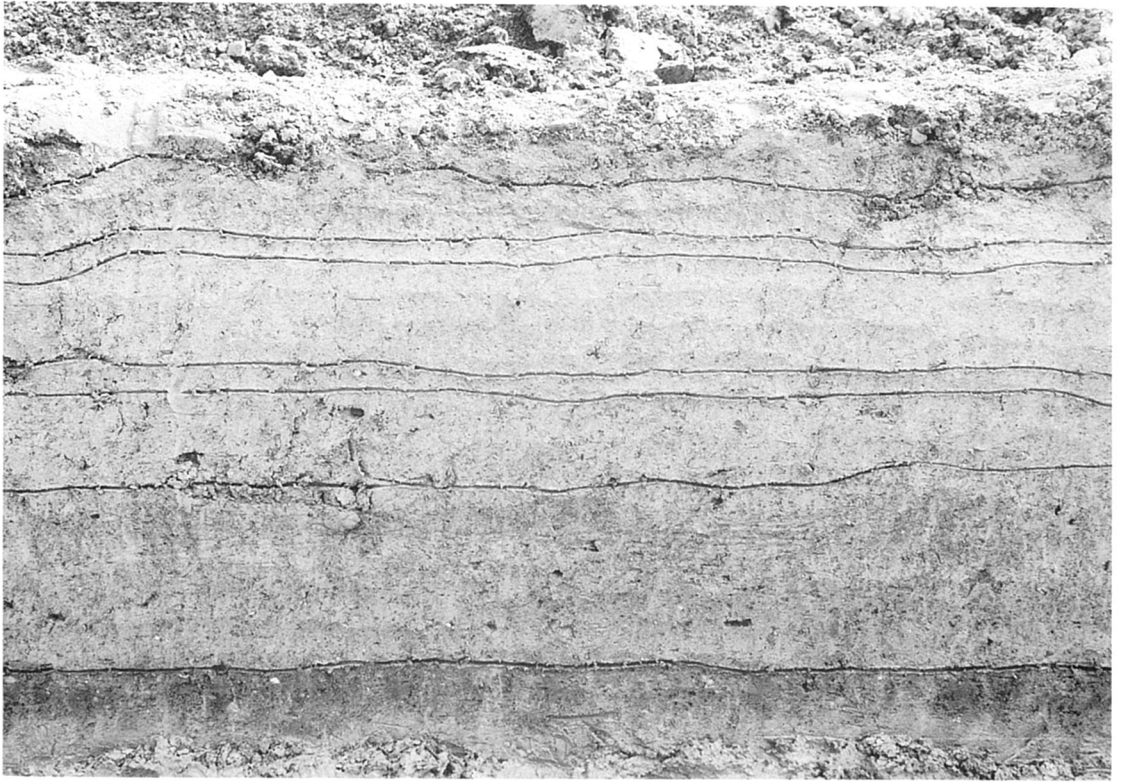
5, 14-OP断面、6, 15-OP断面、7, 34-OP断面、8, 36-OP断面



調査区遠景（西から）



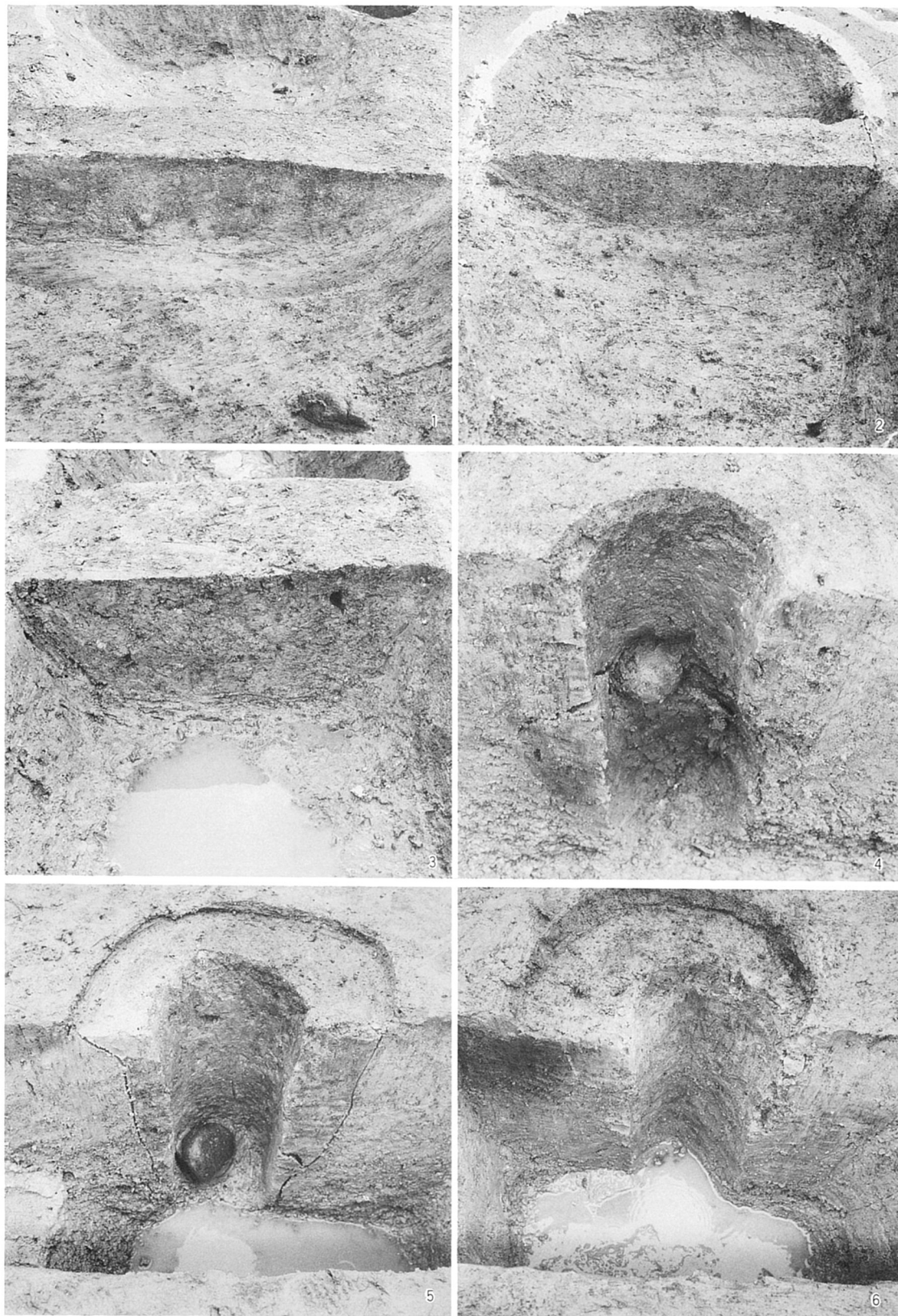
調査区全景（南から）



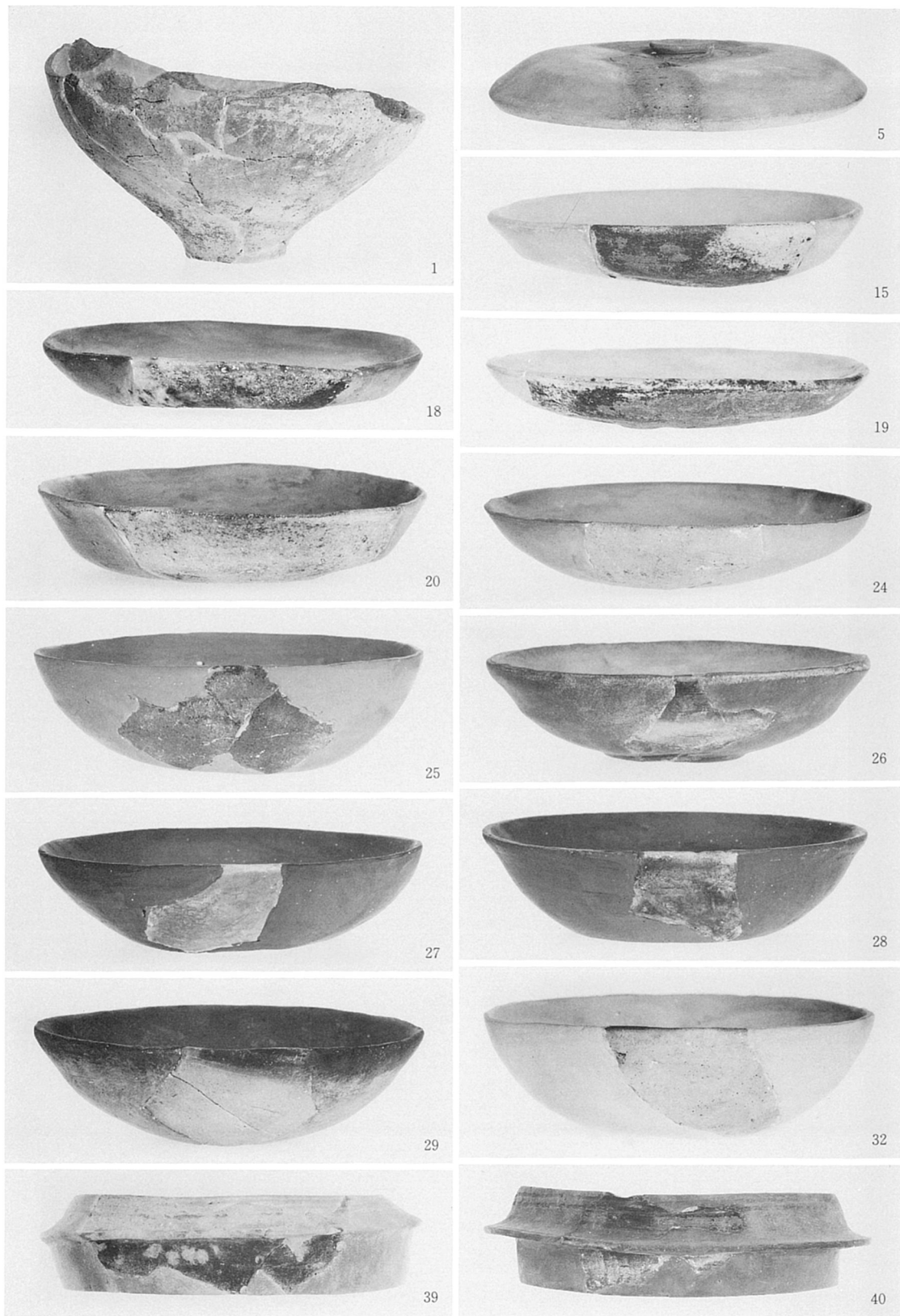
調査区南壁土層断面（北から）



調査区東側堤防土層断面（西から）



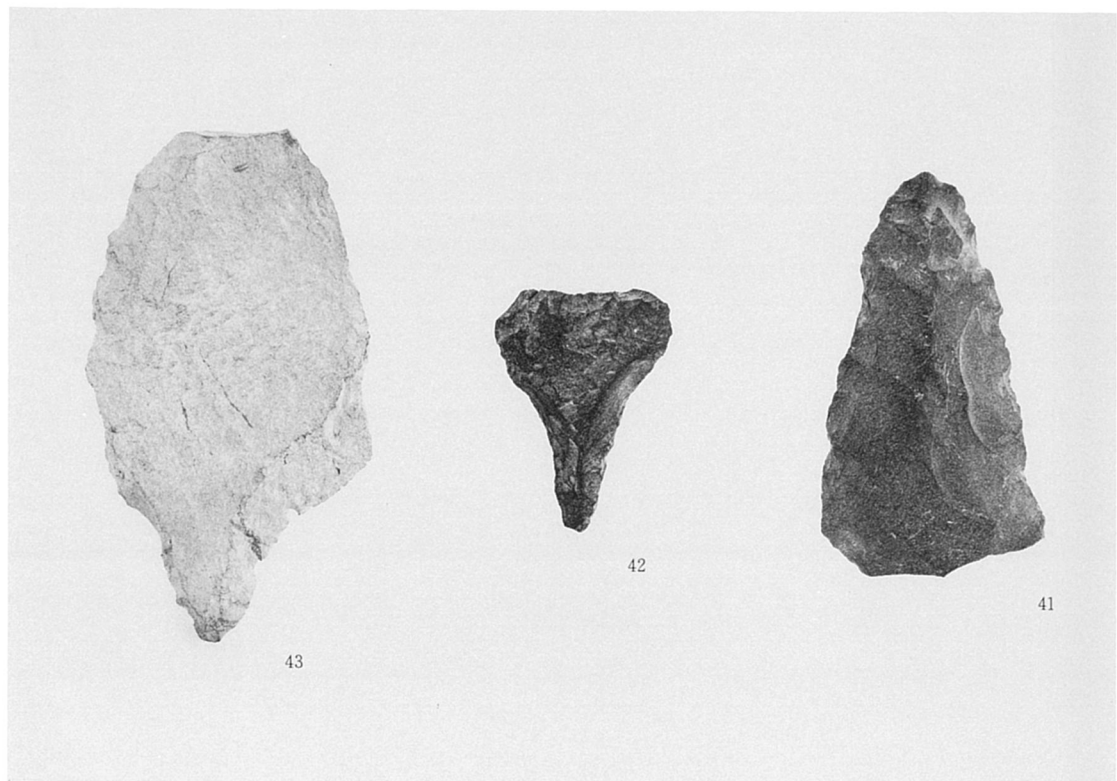
1, 1-OS断面、2, 2-00断面、3, 3-00断面、4, 16-OP断面、5, 18-OP断面、6, 19-OP断面



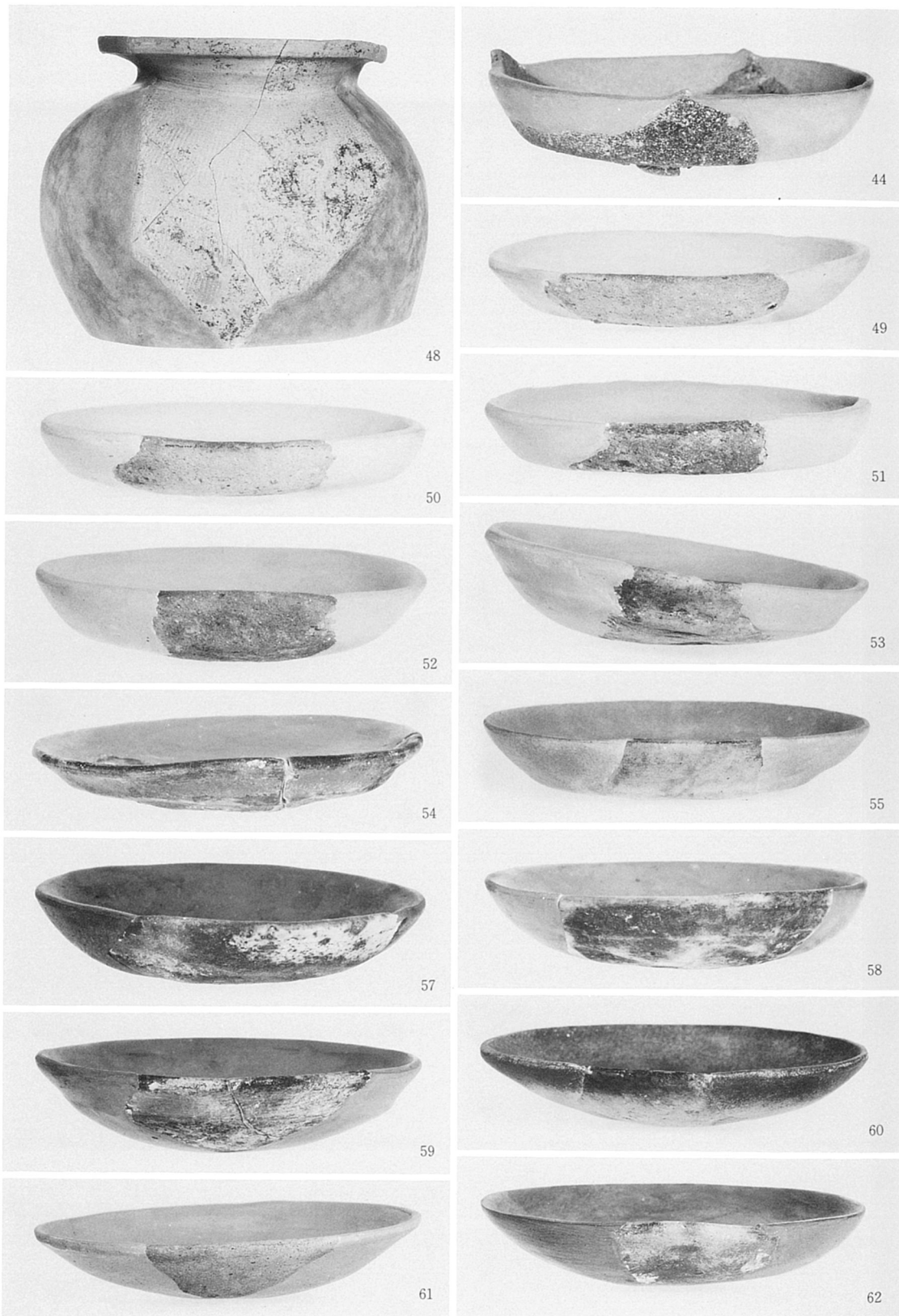
1, 1-00出土遺物、5・15・18~20・24~29・32・39・40, 包含層出土遺物



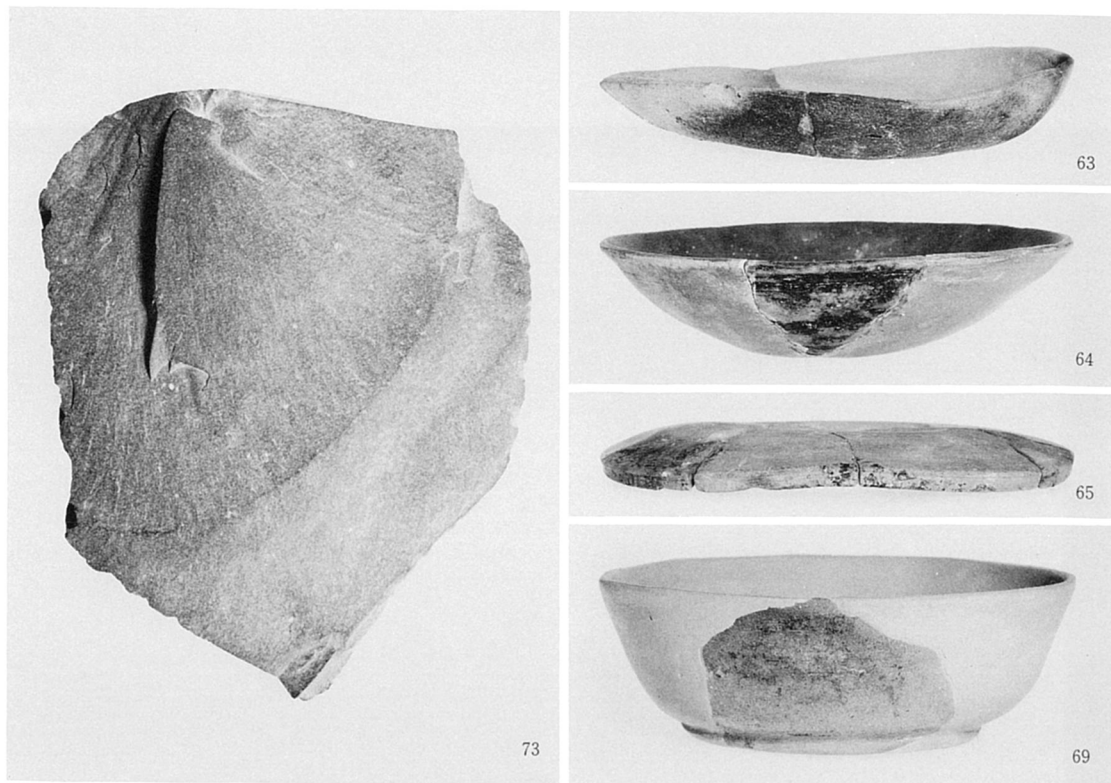
34~38, 包含層出土遺物



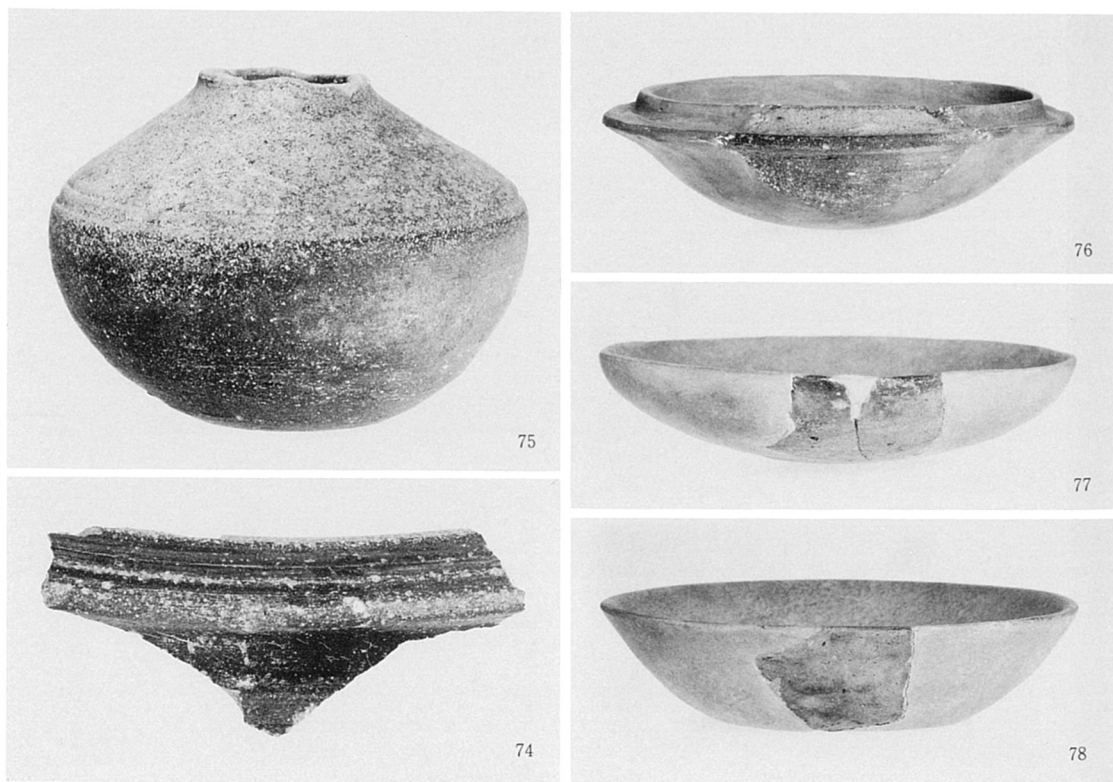
41~43, 包含層出土遺物



44・48, 28-OS出土遺物、49～55・57～62, 包含層出土遺物



山直北遺跡 63~65・69・73, 包含層出土遺物



二俣池北遺跡 西側堤防調査 74, 2-OS出土遺物、
南側堤防調査 75, 16-OP出土遺物、76~78, 包含層出土遺物

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第61輯

山ノ内遺跡 II他

(山ノ内・山直北・二俣池北遺跡)
主要地方道岸和田・牛滝山・貝塚線建設に伴う
発掘調査報告書

1990年9月30日

編集・発行 財団法人 大阪府埋蔵文化財協会
大阪市中央区谷町2丁目2番20号 大手前ウサミビル

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

